



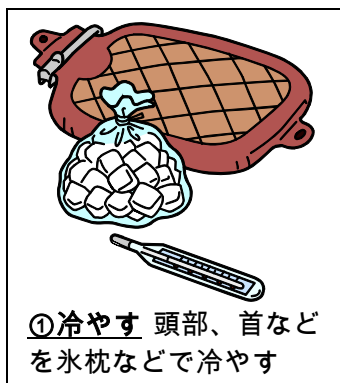
グリーンポトスニュース

42号：2001年2月

寒い日々が続いています。いよいよ冬本番です。そこで今月の話題は『小児の発熱』です。

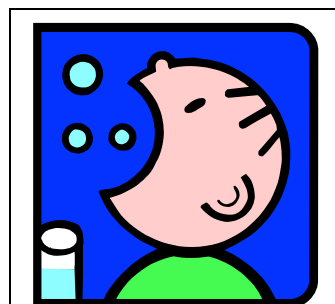
小児の発熱

冬は、いろいろな風邪のために発熱はつき物です。特に5歳以下の小児の場合、平均で年に5回は熱を出します。これは、小児期は、免疫学的な“学習期”にあたるためである。



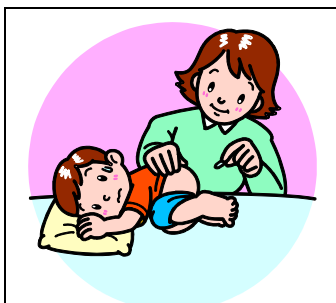
①冷やす 頭部、首などを氷枕などで冷やす

発熱自体は生体防御系の働きを高めるなどメリットがあるため、発熱したからといって必ずしも解熱剤を必要とするものではありません。発熱したら、まず、安静にして氷枕などで①冷やすことです。そして、一番大切なのは②水



②水分補給 小児用スポーツ飲料30mlずつ、1時間おきに与える。

分補給です。小児は、成人に対して、体表面積比が大きいいため、発汗のため、脱水状態になりやすいのです。小児用のスポーツ



③解熱剤 夜間に高熱のため寝付けない場合は座薬を1回だけ使用する。

飲料をおちょこに一杯ほどずつ、1時間おきに与えます。排尿回数が1日に1~2回に減少したり、濃い尿が出たり、口が渴いているなどの脱水症状があらわれたら、必ず、医療機関に受診してください。

38℃以上の高熱時の心配として、熱性けいれんがあります。熱性けいれんは、脳への影響も少なく、あまり心配は要りませんが、夜間の場合は、一晩に1回を限度に座薬などの③解熱剤を使用しましょう。しかし、それでも、④熱性けいれ



④熱性けいれん 救急車を呼ぶ。数分で治まれば心配ないので、時間を計っておく。

んが発生した場合は、慌てずに救急車を呼びましょう。その際、けいれんがどれくらい続いていたかを測定してください。慌てずに対応することが大切です。心配なら、早めにかめざわクリニックを受診してください。